

4. ディベートをしよう

- ドリルの第15～18回の学習をふまえて、ディベートをしてみましょう。今回のワークで行うディベートは、筋道だった説明をするための学習です。勝ち負けにはこだわらず、ディベートを通して「論理的思考力」「情報整理力」「説得力」といった総合的な力を身につけることを目標にしましょう。

ディベートの流れ

30分ディベートの流れ

(標準例)

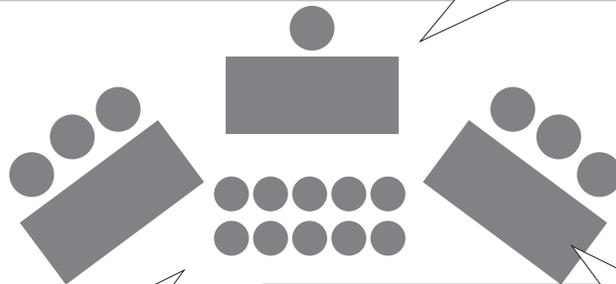
- 賛成側立論 (3分)
- 反対側立論 (3分)
作戦タイム (2分)
- 反対側の尋問 (8分)
- 賛成側の尋問 (8分)
作戦タイム (2分)
- 反対側最終弁論 (2分)
- 賛成側最終弁論 (2分)

審査・判定

※①～⑥は発表の順番。

司会(1～2人)

- 開始の宣言と進行。ルールの確認。
- 議論がテーマからはずれないようにコントロールする。
- 制限時間内に行うように発言の指示や制御(せいぎよ)を行う。



審判団(3人以上の奇数人数)

- テーマやチームに対する先入観を持たずに判定する。
- 討論過程の事実に基づいて判定する。
- 判定基準⇒主張は明確で論理的か、尋問が効果的だったか、最終弁論に論理性・説得力はあったか。
- ルール違反(時間オーバーなど)は減点。

討論メンバー(各チーム3～5人)

- 制限時間を守る。
- わかりやすく伝える。
- 相手側の感情を害するような態度や発言をしない。

主張を支える根拠として、資料を用意すると効果的。著者名・文献名・発行年・引用箇所を明示すること。

例
学校の図書館に
マンガを置くべきか

① 賛成側：立論

(主張) マンガも置くべきだ



② 反対側：立論

(主張) マンガは置くべきでない

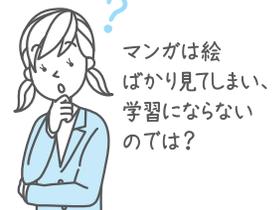
(理由) マンガより一般書をもっと充実させるべきだから。



作戦タイム

③ 反対側：尋問

(①に対する反論)



やってみよう！ ディベート

STEP 1 テーマを考える

●次の5つの例から、ディベートのテーマを決めましょう。

1	文化祭は隔年にすべきである。
2	優先席は設置すべきである。
3	日本において救急車の利用はすべて有料にすべきである。
4	原子力発電所はすべて代替発電に切り替えるべきである。
5	下人の行為は許される。(『羅生門』芥川龍之介より)

STEP 2 ディベートをする

●どちらの立場に立っても議論ができるように、両方の主張を考え、記入しておきましょう。

テーマ			
	賛成側		反対側
①		立論	②
		↓	
④		尋問	③
		↓	
⑥		最終弁論	⑤

④ 賛成側：尋問

(②に対する反論)

一般書ばかりだと本を読む意欲がそがれるのでは？



作戦タイム

⑤ 反対側：最終弁論

図書館にマンガは不要。



⑥ 賛成側：最終弁論

学習に役立つマンガも置くべき。



審査・判定